イベント報告

The biggest and the smallest

朝霧高原ロゲイニング（静岡県）　みろくロゲイニング（香川県）

村越 真

最大と最小二つのロゲイニング。富士山周辺の広大な荒野と西国の歴史を感じさせる田園風景。規模も環境も対照的な二つのロゲイニングが 11 月末から 12 月上旬にかけて行われた。

The biggest：
朝霧高原ロゲイニング

2013 年 11 月 24 日 静岡県富士宮市

朝霧高原ロゲイニング史上、そして今年のナヴィゲーションゲームズの中で最大の規模となった本大会は、2008 年にスタートし、今年で 6 回目を数える。一般市民の参加にも力を入れたため、初めて 400 人を超えた。毎回激戦の混合の 47 チームを上回る 51 チームがファミリーに出場したのも朝霧ならではだ。

男子はロゲイニングの帝王柳下大を擁するワイルド阿闇梨（＋横内）と今季竹内が好調でチーム力を挙げているマッパ（＋田中）の競い合いが注目された。結果はワイルド阿闇梨が 133 点差の圧勝に終わった。また混合でも高い走力を有する女子メンバー大澤のチーム遠足（＋渡辺）が 872 点とマッパに 2 点と迫る高得点を獲得。2 位の TEAM 阿闇梨（村越・田島）を圧倒した。

今年も晴天に恵まれた朝霧高原ロゲイニング大会。400 人が同時にスタートする様は何回見ても心が躍る

富士山をバックに広大な自然の中を走れるのが本大会の魅力。アウトドアアスリートとともに、赤ちゃんを背負った家族組（左）も参加している懐の広さもまた魅力である

今年は根原財産区の協力で、荒涼とした枯れ野原を走ることができた。このエリアは毎年火入れによって植生が維持されている。TEAM 阿闇梨の田島

表彰式の様子。フィニッシュ後はお風呂に入れて、屋内で表彰式を待つことができるのも、本大会の魅力の一つ。快適にフィニッシュ後の時を過ごし、仲間とのレース談義も弾む。

朝霧高原ロゲイニングがスタートした 2008 年、主催となる県立朝霧野外活動センターは、静岡県教育委員会直営から日本キャンプ協会グループによる指定となった。新たに指定管理者となったキャンプ協会は、独自色を求めていた。エキスパートから初心者まで楽しめる、朝霧高原らしいイベント、このコンセプトで生まれたのが「オリエンテーリング in 朝霧」だ。土曜日にミニアドベンチャーレースや読図講習などのナヴィゲーションのゲームや講習、そして日曜日には朝霧高原の広大な自然を使ったロゲイニングが行われる形でスタートした。

昨年からは土曜日にクイック 0（R）が開催され、名実ともにナヴィゲーションスポーツの祭典となった。土曜日の読図講習には田島利佳講師、ミニアドベンチャーレースには横山峰弘、クイック 0 には藤島由宇氏と、それぞれの分野の第一人者を迎え、親子で来てもエキスパートが来ても 2 日間、楽しめるイベントとなっている。

前日にはクイック O やミニアドベンチャーレースも開催されている。いずれもファミリーからアスリートまで楽しめるイベントとなっている（写真は一昨年のもの）

前日イベントの表彰式の様子。小さな子どもたちにも授賞のチャンスが与えられている。プレゼンターはコースディレクターの小泉成行。

本大会を主催する同センターは、11月のロゲイニングの他にも、ナヴィゲーションに関する多くのイベントを開催している。偶数年（次回は2014年）には、12時間を制限時間とするロゲイニング大会の開催が予定されている。

前回の2012年大会では、山宮浅間神社や白糸の滝、人穴など、世界遺産構成要素候補などをポイントにした200km2を超える壮大なエリアでの大会が開催された。世界遺産登録後初となる来年の大会ではさらに多くの参加が見込まれるだろう。

また2月にはナヴィゲーションとリスクを主要なテーマとした野外活動指導者研修、10月には静岡大学公開講座とタイアップしたランニング＆ナヴィゲーションのテーマ講習、また全日本スプリント0選手権や富士山西麓の森を活用したロング0の大会も企画されている。

さらには、こうした活動の蓄積を踏まえて、同センターでは、「朝霧ナヴィゲーションパーク構想」も計画している。フィジカルな能力はもちろんだが、ナヴィゲーションスキルもアウトドア活動になくてはならない基礎スキルである。多くの人がナヴィゲーションに親しむことは、安全だけでなく、アウトドア活動をより奥深いものにする。

同センターがナヴィゲーションに傾注する大きな理由はそこにある。もちろん、指定管理者という競争的な環境の中で他の施設との差別化を図る意図もあるのだろう。今後も同センターにおけるナヴィゲーションスポーツに注目するとともに、オリエンテーリング界としてもこのような姿勢をバックアップし、他の施設への波及効果を狙いたいところだ。

The smallest:
みろくロゲイニング

2013年12月8日 香川県さぬき市

関西で数少ないロゲイニング大会であるみろくロゲイニングも今年で3回目を数える。立ち上げの2011年には各地のフォトロゲを監修する伊藤奈緒が、2012年は関西を本拠とする奥村理也がイベントディレクターを務めた。初めての地元主体の開催となった今年は、東から北東の海岸部へのエリアが拡大され、地元オリエンテーリング協会の木村がバランスのよいCP配置で参加者を悩ませた。

この大会、ロゲイニング人口の多い関東から離れているという地理的なハンディはあるとは言え、毎年参加チームが20チーム程度と盛り上がりに欠ける。今年も、当日参加がある程度あったものの、結果的には18チームに個人が5人と、寂しい。とは言え、男子組は朝霧ロゲイニングでも2位になったマッパ（田中、竹内）が優勝する。混合は各地のロゲイニング常連チームの多くが出場し、優勝はTEAM阿闍梨（村越・田島）、2位木酔会（小暮・小暮）、3位横浜OL（清谷・清谷）と激戦となった。予想外にレベルの高い大会となった。

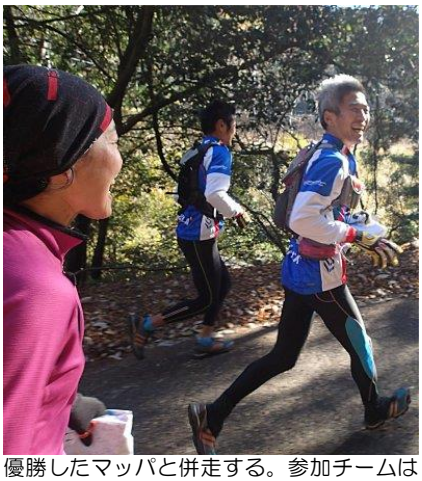
参加人数は寂しいものの、このみろくロゲイニング、見所も付加価値も満載である。白砂青松で知られる瀬戸内の風土を感じさせるこの地域の風景はどことなく白くて明るい。そんな田園風景の中を走るのは、山の中を走るのとは違うのびやかさな気分になれる。ポイントに選ばれた寺社のたたずまいも、西国の歴史を感じさせる。

さらに、さぬきといえばうどん。筆者も時間に余裕のあった昨年は、翌日さぬきうどん屋巡りツアーを敢行した。また瀬戸内海に面する志度ではカキの浜焼きを提供する小屋があり、瀬戸内海沿岸ならではの味覚を味わうことができる。昨年は、他のチームも誘って10人以上でカキ焼きの炉を囲んで、レース後の楽しいひとときを過ごすことができた。

さらに、意外とアクセスがいいのだ。高松駅から約1時間だが、その高松までは東京を土曜日の夜行列車サンライズ瀬戸でも十分間に合う。県庁所在地駅では唯一の島型ホームに到着する夜行列車から降り立つと、気分は限りなくヨーロッパ遠征である。関西圏からは車で2時間ほどの距離があるに過ぎない。

来年この大会が開催されるかどうかは微妙なところだが、開催されるなら、スポーツツーリズム気分でぜひ参加したいお勧めの大会に間違いない。

CPとなった神社の一つ。丸太で作った鳥居が西国らしい歴史を感じさせる



優勝したマッパと併走する。参加チームは少なかったが、地図やコースもバランスがよく、レベルの高いレースが楽しめた

唯一の成人女子チームとして優勝した「いきあたりばったり」。普段は関西でトレランを中心に活動しているとのこと

アフターも充実！カキの浜焼きや讃岐うどん巡りも楽しい。3位の横浜OL清谷夫妻は前日たらふく食べて、カキパワーで走ったとか。。。

（村越 真）